

ウェブサイトからもお申込みいただけます ▶ <https://inclusive-society.net/>

【共生社会フォーラムin広島 参加申込書】

ご記入いただいた個人情報は、本事業以外の目的には使用いたしません。

法人名 (事業所名) または学校名			
連絡先	住所	〒	
	電話番号		FAX
	E-mail	@	

参加希望コース ※1	参加者氏名	職名・職階・経験年数(福祉職) 学生の場合:学部・学科・学年	コース②研修参加 希望者は記入必須
☐ ① 一般(基調講演等) ☐ ② 研修(中堅/学生・新任)	代表者(連絡窓口)		
☐ ① 一般(基調講演等) ☐ ② 研修(中堅/学生・新任)			
☐ ① 一般(基調講演等) ☐ ② 研修(中堅/学生・新任)			
☐ ① 一般(基調講演等) ☐ ② 研修(中堅/学生・新任)			
推薦欄 ※2	【第1分科会(中堅)の研修希望者がいる場合のみ】研修希望者は、福祉職・教員・行政職として おおむね5年以上 の現場経験を有し、福祉施設・事業所・学校・自治体等の職場において 職員を指導・助言する立場にある ことを保証し、また以下の理由で研修への参加を推薦します。 《推薦理由》 (推薦者)法人名等・役職・氏名		
	備考欄 ※情報保障やバリアフリー対応について配慮が必要な場合はこちらにお書き添えください。 状況によりご希望どおりの対応ができない場合があります。その際はあらかじめご連絡いたしますので、ご了承ください。		

※1 参加希望コース欄は、「一般/研修」いずれかにチェックを入れ、研修希望者は「中堅/学生・新任」いずれかに○をつけてください。

※2 研修(第1分科会)参加希望者は、所属の施設・事業所、社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、学校長・教育委員会、自治体等から推薦を得てください。

(公財)糸賀一雄記念財団 FAX: 077-567-1708 E-mail: itoga-oubo@itogazaidan.jp
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138滋賀県立長寿社会福祉センター内 TEL: 077-567-1707

【厚生労働省主催】令和4年度 共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業

共生社会 フォーラム

in 広島 2022 [中国・四国 ブロック]

福祉の思想に学び、実践し、語る人に

基調講演① 加地 信幸 氏 広島文化学園大学

基調講演② 奥田 知志 氏 認定NPO法人抱樸

令和4年 **12月5日**(月)～**6日**(火)

会場: **広島県社会福祉会館**(広島市南区)

参加定員: **84名** (一般: 60名 [12/5のみ]
研修: 24名 [中堅16名、学生・新任者8名])

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手指消毒、検温へのご協力をお願いします。
また、発熱がある場合はご欠席ください。感染状況等によりプログラムは変更になる場合があります。

実施 公益財団法人糸賀一雄記念財団、共生社会フォーラムin広島開催委員会(構成団体は以下)
広島県知的障害者福祉協会 / 一般社団法人広島県手をつなぐ育成会 / 社会福祉法人広島県社会福祉協議会 / ここすまネット

申込・問合せ 公益財団法人 糸賀一雄記念財団 HP <https://inclusive-society.net/>

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内

TEL 077-567-1707 FAX 077-567-1708 E-mail itoga-oubo@itogazaidan.jp

全ての国民が、障害をはじめとする生きづらさの有無によって分け隔てられることなく、人の尊厳の輝きを認め合いながらともに生きる共生社会の実現が求められています。しかしながら、社会の一部には、障害を有する方に対する否定的な意見や偏見が一定数存在することを踏まえ、共生社会を実現させるためには、その基本理念について福祉分野をはじめ広く社会に普及させる必要があります。誰もが等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるという理念等について学び、自らの実践につなげ、さらには所属や地域社会に向けて普及啓発していく人材の養成研修を組み込んだフォーラムを実施します。

コース 共生社会フォーラムin広島は大きく2つのコースに分かれています。

【コース①一般参加】対象：一般(福祉職・学生含む) 基調講演や映像プログラム

基調講演では共生社会の実現に向けて先駆的に取り組みを推進する2人の実践者からお話をうかがいます。映像プログラムでは、日本の障害福祉の父と言われる「糸賀一雄」の思想と実践について学びます。
*1日目14:15までのプログラムに参加

【コース②研修参加】対象：福祉職・学生 共生社会における語り部等養成研修

津久井やまゆり園事件を契機に、福祉に携わる人々の資質や対話のあり方が問われています。対象別に2つの分科会にわかれ、共生社会の基本理念について考え、普及啓発のための語り部を目指すプログラムです。
*コース①に加え、2日間すべてのプログラムに参加

参加申込方法・定員 裏面申込書(FAX/Eメール)、ウェブサイトにてお申し込みください。

申し込みは、「コース①一般参加」と「コース②研修参加」の2種で、いずれも事前申込が必要です。裏面申込書(FAX/メール)またはウェブサイトの申込フォームに必要事項を記入し、お申し込みください。「コース①一般参加」に参加条件はありませんが、「コース②研修参加」は右の条件を満たす方が対象です。また、研修参加者には事前に資料をお送りします。あらかじめ資料を読んで研修に臨んでください。

＜第1分科会＞福祉支援語り部(中堅)
福祉職や教員および行政職としておおむね5年以上の現場経験を有し、職場で中堅職員、管理者等として職員を指導・助言する立場にある人。研修を経て共生社会の基本理念を職場内で実践し、語り広めることが期待できる人で、所属の施設・事業所、社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、学校長・教育委員会、自治体等から推薦された人。
＜第2分科会＞学生・新任者
在籍する学部等を問わず、福祉に強く関心がある大学生等。または、福祉施設・事業所等に就職しておおむね数年以内の新任者や内定者。

定員：コース①60名 / コース②24名(第1分科会16名/第2分科会8名)
申込締切：令和4年11月28日(月) ※定員になり次第、締め切りとします。

会場アクセス

広島県社会福祉会館 広島市南区比治山本町12-2 TEL 082-254-3411
JR「広島駅」南口より 路面電車約10分、電停「比治山橋」下車 徒歩約5分
バス停「南区役所前」より 徒歩約1分

駐車場が狭いため、車での来館は極力ご遠慮ください。詳しいアクセス方法は、「広島県社会福祉協議会」ホームページのアクセスをご覧ください。



講師プロフィール

加地 信幸 氏

広島文化学園大学 人間健康学部
スポーツ健康福祉学科 学科長・教授



1971年広島県出身。県立広島特別支援学校教諭などを経て2017年より広島文化学園大学教授。県立広島女子大大学院修士課程修了。重度障害児者のスポーツや指導者養成が専門。2007年にHBG重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」設立・代表。博報賞特別支援教育部門(2017)、文部科学大臣表彰(2021)、保健文化賞(厚生労働大臣賞ほか、2022)など受賞。著書に障害児体育の授業など多数。

奥田 知志 氏

認定NPO法人抱樸
理事長



1963年滋賀県生まれ。関西学院大学・大学院卒。東八幡キリスト教会牧師、NPO法人抱樸理事長、NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長、公益財団法人共生地域創造財団代表理事、一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事、一般社団法人全国居住支援法人協議会共同代表。NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演。著書多数。

タイムテーブル

▶▶ 1日目 令和4年12月5日(月) ※コース①は、14:15まで

コース①・②対象	10:00 - 10:05	開会あいさつ
	10:05 - 11:00	基調講演① 「共生社会に求められるアダプテッド・スポーツの重要性」 加地 信幸 氏
	11:00 - 12:00	基調講演② 「いのちに意味がある ～私たちは何を大切にしてきたのか～」 奥田 知志 氏
	13:00 - 14:15	映像 NHKスペシャル「ラストメッセージ この子らを世の光に(※)」
14:30 - 17:30 コース②対象	グループワーク研修①(第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) いずれの分科会でも福祉の思想・普遍的価値の共有を目的として、基調講演や映像プログラムを題材に、個人の内面に向き合うワークとグループディスカッションを行います。	

▶▶ 2日目 令和4年12月6日(火) ※コース②の受講者のみ対象

9:30 - 12:00 コース②対象	グループワーク研修②(第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) 第1分科会では、やまゆり園での事件を題材に、“生きる意味のない命がある”“障害者は社会に不幸をもたらすだけ”という考えに同調する意見などに返す言葉をもつためのワークを行います。第2分科会では、NHK Eテレ「バリバラ」の出演などで知られる玉木幸則氏とともに、“そもそも障害とはなんだろう?”をテーマに率直に語り合います。
13:00 - 15:00 コース②対象	グループワーク研修③(第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) 第1分科会ではグループワーク研修①や②を踏まえて、それぞれが自らの職場に戻って語りの場を持つことができるよう、メンターのサポートを受けながらアクションプランを作成します。第2分科会では、グループワーク研修②の議論を引き継ぎながら、玉木幸則氏とともに、“学生一人ひとりが抱える生きづらさ”を言葉にしながら、“福祉=幸せの追求”や“そもそも人が生きること”について、向き合います。
15:00 - 16:00	全体共有・講評/まとめ・ふりかえり/閉会あいさつ

*新型コロナウイルス感染状況等により、両日ともプログラムの内容は変更になる場合があります。

※ラストメッセージ この子らを世の光に

日本初の公的福祉施設「近江学園」設立に尽力した糸賀一雄と彼を支えた池田太郎や田村一二らについて紹介。障害のある子どもたちと寝食を共にし、生き生きと暮らす糸賀や職員たちの姿を記録した当時のフィルムに映るのは、まさに「福祉」の原点と言える。